

背景

- 課題先進国の日本
- ゆでガエル現象
- 都市と農村の共存共栄
- 持続可能な社会の構築

課題

- 人口減少による人材不足
- 荒廃する農地や山林
- 少子高齢化、気候変動、エネルギー資源制約、地域間格差
- 誘致企業の撤退

目指す姿

- 住民の主体的、包括的な地域づくり
- イノベーションによる新産業創出
- 小規模分散型の再生可能エネルギーの利用
- 地域資源の多面的な活用

事業の目的

“**田園の息吹が暮らしを豊かにするまち**”を目指して

- 自らの地域に誇りを持ち、美しい地域づくり、地域の自立を推進
- 新たな産業の創造による価値の創出
- 多様なステークホルダーと連携した農村再生モデルの構築

これまでの取り組み

- リチウムイオン電池の分析・研究開発を核とした“飯豊電池バレー構想”
- バイオマス産業都市、気候非常事態、ゼロ・カーボン宣言による脱炭素社会の構築
- SDGs未来都市、自治体シンクタンク「いいで未来研究所」の創設



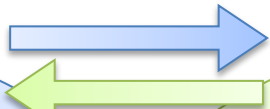
SDGs未来都市「いいで」が描く社会環境経済の三側面

4 質の高い教育をみんなに
9 産業と技術革新の基盤をつくろう

経済

ピンチをチャンスに、逆境からの転換点

- ①再生可能エネルギーの創出と地域循環
 - ◆町内の豊富な木質バイオマス資源の活用
 - ◆米沢牛の排せつ物を活かしたバイオガス発電
- ②飯豊電池バレー構想
 - ◆蓄電デバイス関連産業の集積、拡充支援
 - ◆専門職大学の開学支援



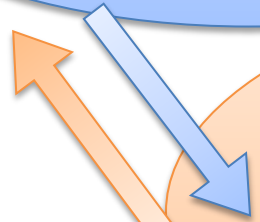
社会

11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナリシップで目標を達成しよう

地域のコミュニティ力、地域力の向上

- ①農村の価値の継承と発信
 - ◆農村のアイデンティティとレガシーの継承
 - ◆農村型まちづくり会社等の創設
- ②「住民主体のまちづくり」の進化
 - ◆いいで未来研究所が発信する「真の豊かさ」

「いいで未来研究所」が つなぐ農村の新たな価値創出事業



荒廃危機の里山に「美しい村」を取り戻す

- ①地域資源を活用した循環型環境構築
 - ◆域内循環による地球温暖化配慮
- ②飯豊型エコハウス、エコタウンの推進
 - ◆環境と経済にやさしい暮らし
 - ◆空き家リノベーションによる交流環境の構築



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
13 気候変動に具体的な対策を

環境



起業支援施設(xEV飯豊研究センター)



ながめやまバイオガス発電所



住民主体のまちづくり総合計画策定
ワークショップ

経済

社会

環境



田園散居集落景観



バイオマス産業都市構想



次世代省エネ住宅「飯豊型エコハウス」



事業
内容

経済

飯豊電池バレー構想 ～最先端科学と融合した新しい農村の創造と経済の域内循環～

- ・EV(電気自動車)向けの電池の分析・研究開発・データ取りを起業支援施設(xEV飯豊研究センター)において実施。様々な企業とのコンソーシアムを構築中。
- ・次世代モビリティシステム(車体・自動運転・モーター・電池)に特化した教育を実施する「電動モビリティシステム専門職大学(認可申請中)」を開校し、日本経済の次代を担う人材育成。

環境

農村の価値の継承 ～小規模分散型の再生可能エネルギー普及による脱炭素社会の構築～

- ・家畜排せつ物によるバイオガス発電事業の更なる推進と地産地消の地域電力会社の立ち上げ
- ・SPC(特別目的会社)による木質バイオマスを利用した熱供給事業の展開

得られ
る成果
等

成果・目標

- 共同研究企業進出・交流人口拡大・雇用創出
- 新たなビジネスやイノベーションの創発
- シビックプライドの醸成

企業に求めるもの

- 企業版ふるさと納税による支援
- プロジェクト協働パートナー・包括連携協定など

企業のメリット

- 課題先進地における新たなビジネスの創造
- SDGs(ゼロカーボン)・社会貢献企業としてのPR

【お問い合わせ先】

飯豊町企画課総合政策室 ☎:0238-87-0521
mail:i-seisaku@town.iide.yamagata.jp